

---

# 詞集

りらいず

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

詞集

### 【コード】

N01930

### 【作者名】

りらいず

### 【あらすじ】

某ブログ限定記事にさえ載せられないイタイ詞を勝手にのせてます）

MIX!

宝石ばっかでお洋服が見えない  
つまらない格好はよして

お出掛けするなら靴くらい履いてっつてよ  
ねえ、自分勝手はお家の中で

探してよ、光なんて要らない  
重大な要素はお口にチャック！  
また見つけたよ、大きなめだまさん

ほら、見てよ。綺麗な星空  
お掃除の必要は無いみたい  
こんなミライ見たい・見たくない  
印はあなた次第でしょ？

ジュースまたこぼしてアプリケツト台無し  
つまらない態わざとはよして  
アクセサリーの前に自分の歯を磨いて  
ねえ、鍵はかけたんだろうね

探したよ、お気に入りのまくら  
毎日ふかふかで寝心地も良いんだ  
もう見つけてよ、フライト時間は過ぎました

ほら、見てよ。あおすぎる太陽

照らすには少しの修行が必要ね  
鈍感過ぎてこれ以上考えちゃうと  
不合格のサインはすぐそこに?!  
ほら、来てよ。まっかな夕日  
お風呂沸かす余裕は無いみたい  
こんな奇跡起きて・起きないで  
明日は怪獣が来るかも知れないんだから  
印はあなた次第でしょ?

## MIX！（後書き）

タイトル通り、いろんなメロディーをミックスして作りました。

って言うっても見てる人にとっては曲なんてわからないんですけどね

（・・；）

サビは東京事変の「キラージューン」を少し意識しました

## ピアノ

用意された応えに  
まるで従うかのように  
糸を吊す様が笑えた

昔、神様だって  
いくつものも人を殺した  
「純白な神」なんて  
存在しないんだ

奏でられた足でそのまま  
ふらついていたら  
見えたのは白雪  
黒い目で見たのはきつと雪でしょう

金色の爪を触られて  
怯えているのだろうか  
悲鳴のような声を上げて  
ただ叫び続けた

夜通し作業を続けるその姿は  
月明かりに颯爽と照らされ  
まるで壮大な  
造形物の象徴であった

奏でられた足でそのまま

ふらついていたら

見えたのは白雪

黒い目で見たのはきつと雪でしょう

たまにはハメを外して

この透明な境界線を

ぷつん、という音を立てながら

切ってしまいたい

奏でられたその足で

ふらついていたら

見えたのは白雪なのか

それともただの埃だったのか

奏でられたその足で

ふらついていたら

見えたのは白雪？

最後の夜に見た粉雪でした。

## ピアノ（後書き）

ピアノの最期の夜を詞にしてみました。

ちなみに、結局ピアノが見た白い物体は雪ではなくホコリでした



f r e e z e

何かを言ったわけでもないのに  
あたりはしんとしていて  
冷たくて強い風だけが  
あたりをさらっていきました

そして夜が明けた後  
誰もが居なくなっていて  
独り部屋の中  
澄んだ生活あじくを味わって

凍り付いた心の中じゃ  
何かを八つことなど出来なくて  
何も出来ないまま  
また明日を迎えて  
f r e e z e . . . また頼ってしまう

何かをしたわけでもないのに  
あたりは暗黒闇まっくらやみで  
笑って呼びかけてももちろん  
返事はありませんでした

どうして哀を  
哀と呼べないのか  
独り部屋の中  
安楽椅子で考えて

凍り付いた心の中じゃ

何かを語ることなど出来なくて

何かを失ったまま

f r e e z e . . . たまには希望め見ましょ

あらゆる雨に絶えながら

また明日に行くならお先にどうぞ

後からゆくから

後からゆくから

後ろを振り向かないで

凍り付いた心の中じゃ

何かを通信する（おもつ）ことは出来なくて

何かを感じたまま

f r e e z e . . . f r e e z e . . . f r e e z e . . .

氷を張った海の底で

ヒトリサミシク踊っていきましょう

なあに、どうせ誰も来ません

遊び程度でいきましょう

f r e e z e (後書き)

某プログラムのネームから。笑

そんなに好きな詞じゃないです

## 秘密

最近気になることがあるんだ。

どこからか寂しい視線が視える（みえる）

大したことじゃないけど

なんだか不安に襲われる

なんだか疲れるな

脱力したいくらいに

もうちょっと我慢しようかな

誰にも言えない秘密って

みんなあるでしょ？

確かめたい生命線は

途切れ途切れにあらわれ邪魔をするんだ

最近見つめちゃうことが多いよ。

ちよつとばかり寂しく見えちゃう

大した感じに見られてないよね

なんだか不安に襲われる

なんだか窮屈だな

爆発したいくらいに

もう咎められない真実の牙

誰にも言えない秘密って

みんなあるでしょ？

責任逃れようと必死で  
ふわりふわり浮いた状態が心地良いんだ

別次元ちがうひとだったらしいのにね  
友達だからいいのにね  
食い違うからこそ尚更愛おしい

誰にも言えない秘密って  
みんなあるでしょ？  
きつとバレないって思ってるんだ  
縄ひもはもう結ばれているのにね

誰にも言えない秘密は  
マグマに閉じ込めておいて  
飛行機雲眺めながら  
昇華してゆくんだね

秘密（後書き）

ちょっと遠回しですが・・・グロイです、すみません（ノーぐ）

マグマとかバレバレですよ・・・

## 嫉妬

もうすぐ君は私を追い越す

楽しい？嬉しい？オモシロイ？

どうせ同じ人種だから

口には出さないけど

かなりキレ気味週末の午後

認めたくないけど

どうやら君は新居を見つけたようだ

変わらない態度、ありがとう

とてもわくわく先週の予定？！

落っこちちゃえばいい

一緒に行けばいい

どこへだって、構わないさ

満足できるようにどうぞ

さあ、行き先はもうすぐね

すでに君は私を追い越した

悲しい！悔しい！モドカシイ！

どうせ元に戻らないから

デションダウン  
落胆気分な今日この頃

あからさまで悪いけど

どうやら私は君に嫉妬しているみたいだ

変わらないあなた、さようなら

干渉気分な来週の予算?!

突っ込んじゃえばいい

独りで消えればいい

車にだって、飛行機だって

君の好きな乗り物ものでどうぞ

Well, did you want to live in  
the heaven?

雨が降ってきたよ

曇り空が目にしみる

今君は何を見ているのだろう

ゆめみるきぶん  
幸福心地きぶんでいるのだろう・・・

落っこちちゃえばいい

一緒に行けばいい

どこへだって、構わないさ

満足できるようにどうぞ

さあ、行き先はもうすぐだ



## 嫉妬（後書き）

一人称は「私」にしてありますが

実体験・・・？のようなそつでないような・・・そんな感じですよ

^ | ^ ; )

## 楽化

燃えさかる炎の中で  
君をやつと見つけたんだ  
怖いね、そろそろ消えてしまふ  
きつとまた霧になつちやうんだらう

振り返れば見るはず  
もう振りかざせない手を腕に  
嘘なんだ、秘密なんだ  
泣き虫は僕だけで十分でしょう

愛を形に出来ない寂しさと  
愛を作ることできない儂さと  
ぜんぶ、ぜんぶ、抱きしめてみて  
ほらもうすぐ気持ちは現実かたちになる

アドケナサ残る碧い世界で  
君をついに見失ったんだ  
優しいね、自分だつて泡なのに  
どうして理想を才持ちなのでしょう？

窓辺に座れば見えるはず  
腐つて廃れた景色を胸に  
過去なんだ、蔑みなんだ  
どうか新しい詰め替えかきかえを．．．

涙を受け入れてしまふ夢と  
涙をだんだんかすめてゆく希望と  
すべて、すべて、乗せてみてよ  
ほらもうすぐ行くべきばしょ届くから

きらり、ひらり、ぱらり、さらり  
何かがどどん落ちてゆく  
悲しい顔をしないでいてね？  
味わう意味なのないのだから

ほらもうすぐ在るべき場所に行くから

## 楽化（後書き）

楽化と書いて「らっか」と読みます

「楽しくなる」「と」「落ちる」「の複合語とでも思っていたただければ  
^ ;

Parallel Snow Fantasy

どうしても鳴り止まない

鐘の音とか鈴の音

綺麗だとは思っけど

繊細すぎて生憎合わない

もうすぐ秘密のプレゼントは

奇跡さんたによって運ばれる

過ぎた季節を惜しんでも

必ず雪は降ってくる

哀しみ乗り越えた聖者達

一番欲しいものはなに？

聖夜の奇跡があなたたちを

夢へと運んでくれるでしょうか

今日は貴方のXmas!

楽しい夜をお過ごしください。

体中が冷えてしまう

凍えたこんな夜なんだから

猫のように丸まってみて

ゆっくり眠りについてみましょう

もうすぐ聖夜は更けていって

新しい朝あしたを迎えるんだろな

あの空から振つてきたのは  
大きな大きな氷雪塊ゆきだるま

宴をすでに終えた聖者達

一番の思い出はなに？

聖夜の奇跡はあなたたちに

一体なにをもたらしたのです？

今日の貴方のその輝きを

明日へ繋いで生きてください。

哀しみ乗り越えた聖者達

一番欲しいものはなに？

聖夜の奇跡があなたたちを

夢へと運んでくれるでしょうか

今日は貴方のXmas！

どこからか聞こえる鈴の音と共に

ゆっくりおやすみください。

明日また、逢いましょう

Parallel Snow Fantasy (後書き)

クリスマス用になにか書こうかと思ったんですが

見事に玉砕しました^q^)

雰囲気だけ楽しんでいただけたらと・・・笑

実はサンタクロース目線だったりします(え

## 冬と、季節と、

完璧なんて存在しやしないと  
笑う貴方が怖かった

たまには違う方向で行こうよ  
寄り道だけは嫌いだったのに

振り返ることはいけないこと？

少年のように尋ねてくる

貴方が席を立ったところで  
何が変わるというのだろう

もうすぐ冬が来ますね

私たち、ただ座る存在ですか？

歩いたことを忘れないで

しめった土で眠らないで

もどれない事ほくそ笑んで

約束できないことを怨んで

太陽が見えないことが怖いの

雪に埋もれた君が言う

おんなじ事はしたくないんだよ

マイペースな君がそう言った

立ち止まれないこと知っていたのに  
涙で見えなくなってきた



散々目の前で叫いたところで  
何が変わるといふのだろう

もうすぐ冬が来ますね  
切れない糸を見守るだけですか  
悲しい涙を忘れないで  
知らない夢を懐かしまないで

カタチに出来ないこと夢見て  
眠れないことを怨んで

初雪はもう過ぎたのでしょうか  
あの人はもう居ない  
季節外れの 暑い太陽しせんが  
溶かして 溶かして 消えてしまおうものなら  
心を外して倒れていたい

もうすぐ冬が来ますね  
私たちが、数えるだけで幸せ  
歩いた事を忘れないで  
築いた絆を忘れないで

「もうすぐ冬が来ますね」と  
季節もみじを見ながら呟いた  
口先だけの道だったけど  
なかなかおもしろく進めたよ

もう朝なんだと起こしてよ

冬と、季節と、（後書き）

なんか、またグロいのですみません（・|・:;）

## 白い路で

白い路で

生まれてきた小人たちは  
大人に向かつてほらを吹く  
今まで自分がされたように

白雪の内側にお下がりに  
はくせん

一歩踏み出しても危険

ここはきつと自分たちの知らないせかい

足音踏みならして

白い溜息を吐く者達  
しいき

これじゃまるで悪いコトしているみたいだ

白い路で

生まれてきた小人たちに  
大人は平気でほらを吹く  
まるでそれが正しいかのように

世界が締めります、ご注意ください  
とくひ

挟まってしまったら大変

そこはきつと泣いてはいけなかったせかい

窮屈そうな路で

窮屈そうに歩いている者達

これじゃまるで地球が小さくなってるみたいだ

白い路で

生まれてきた小人たちを

大人は無表情で蹴り飛ばす

まるでそこに誰もいないかのよう

白い路で

生まれてきた小人たちは

大人に向かってほらを吹く

今まで自分がされたように

白い路で（後書き）

白い路⇨死と生の境界線

ってことは小人はえんま様みたいな役割なんでしょうか

## 私の勝敗

きつく閉じた歯に  
もう敵わないだろうと思いはじめ  
自分から去っていたのは  
決して負けを認めた訳じゃない

コソディション  
状況証拠が悪かっただけと  
笑ってみるものの  
頬につたる涙が<sup>えきたい</sup>  
現実味を持たせてくれない

誰か止めてと叫んでみるも  
あたりはおもしろいほどに静まって  
私の行き場はなくなって  
君の行き場もなくなって  
君を憎むのを忘れるくらいに  
大切に欲しかった。

含み笑いをするほどの  
余裕はなかったけど  
それでも“負け”と言わせたく  
ふてぶてしく口端をつりあげた

イマジネーション  
物的証拠が役立たないので  
勝ち誇ってみるもの

非を見せないように逃げていく  
現実味を持たせてくれない

卑劣すぎる勝利を胸にして  
あたりはふるえるほどに賞賛して  
私の行き場をなくしてくれる  
君はどこかに消してくれる  
求めることを忘れるくらいに  
君が欲しかった。

誰か止めてと叫んでみるも  
あたりは私自身をハズレにしてくれ  
結局行き場はなくなって  
君は私を望んでくれて  
君に感謝するのを忘れるなら  
私は負けを認めましょう。



## 私の勝敗（後書き）

勝ち負けより大切なものを見つけた日

## 哀する者へ

どうやら君は  
愛を投げ捨てたようだ  
代わりはないからね  
つんつん尖った  
先っぽ見せられても  
なにもできることはないよ

どうしてここまで怒らせるのさ？  
本気にしちゃうよ！

ずっと夢みて味わって  
何日彷徨えというのだろう？  
混沌する陽見送って

悲しい・楽しい・・・さあ、選びましょう

幻さえ味わって  
蜻蛉さえも気色悪く見える  
簡単な日々送ったり  
写真・手紙・・・さあ、送りましょう

ずっと夢みて味わって  
何日彷徨えというのだろう？  
混沌する陽見送って  
悲しい・楽しい・・・さあ、選びましょう

さあ、受け入れましょう

哀する者へ（後書き）

「すぐ戻ってくるから、待っていてね」

と言われて託児所に預けられ

そのまま母親は迎えにこなかった子供の詞

## あかないまど

今日、私は世界を見た  
私と同じ「人」がたくさんいて  
波の音や鳥のさえずり  
私にはもつたいたないくらいの景色だった

流れゆく時を知らなくて  
大人はいつもだんまりを決めこんで  
いつも窓から見える景色だけが  
私の生命いまだった

みんなにとって私は“特別な子”  
外にでちゃキケンだって  
笑顔をくっつけた人たちが  
世界を遮さってしまう

今日、私は世界を見た  
私と同じ「人」は叫び声ばかりあげ  
大きな爆音・嫌な臭い  
私には眩暈めまいが足りないくらいの景色だった

欲しい物はすべて手に入るの  
おいしい食事もかわいい人形も  
たった一つ叶わない願いとは  
外に出では行けないこと

窓の外の景色が気になっちゃって  
ついに私は窓を開ける  
笑顔がひきつった人たちが  
お出かけした今がチャンス

今日、私は世界を見た  
私が想像していたものはなく  
耳を塞いだって、目を閉じたって  
もう記憶を消すことは出来ない景色だった

昨日、私は世界を見た  
望む世界はなかつたけど  
新鮮な空気に惚れ惚れしながら  
私は今、ドアを開けるんだ  
誰かが私を呼んでる気がするから

今日、私は世界の仲間入り

あかないまど（後書き）

なんかの理由で戸籍がない子供が  
大人のいつけを破り、あこがれていた外に出た瞬間。

## 花信風

君とのつながりは  
あっけないものだった  
繋がるはずもないアドレスに  
何度も呼びかけたのは  
負け惜しみなんかじゃない

“めでたし”なんて言える  
終わり方じゃなかった  
よくあるバッドエンドでもなく  
なんとでも表現できない

時々聞こえる口笛が  
僕の子守歌だった  
今は失恋ソングのてんこもり

君と僕の物語  
めくるページはすれ違う  
君が見てるのは勇者のページ  
僕はお姫様

自身きみから見れば悲劇のヒーロー  
端から見れば偽善者  
この違いが君にわかる？  
楽たのしみな策略に、人は騙されるもん



風が少し冷たい午後  
好きな紅茶もどこか苦く  
足下には子供の靴下  
放り投げる気力さえなく  
冷たい地面に落ちてしまった

もう数年たつけど  
お元気でいらっしやいますか  
病気になるっていらっしやいませんか  
私には関係ないけれど

無責任に私に預けた  
貴方が作った生命は  
“責任”持つてお預かりしています

貴方の声が遠くなって  
私の声もかすれていつて  
あの頃を思い出すたび  
すてき、水滴が頬を伝う

自身わたしから言えることなんてない  
端から見たら負け犬  
どうやったらまた会えるの？  
ずさんな設定おわりに、ため息が混じり出す

貴方と私の物語は  
私が私を“僕”と呼ぶ頃に  
とつくに終わっていたんだって

“ 僕女 ” と言っ て から かつ て た ね

貴方 は 終 わ っ た つ も り だ け ど

私 と 小 さ な . . .

小 さ な 命 は ど う し た ら い い

楽 な 設 定 に、私 は 騙 さ れ ま し た

花信風（後書き）

僕女な誰かさんに捧げる

## しあわせ

「幸せ願ってるだけ」って  
ただ青い鳥にしがみついていただけ  
それで楽しいのなら  
どうぞ、お好きに

そうしている間にも  
春と鳥は去っていく  
今日と明日の違いさえも  
わからない間に

なんとなく、春が来て  
夢を見て。桜咲き  
雨に濡れ、雪に舞い  
空を見て、ふとため息  
ああ、幸せ

しつかりと見据える目  
潤いを忘れないその肌  
決して崩れないその心  
全会一致にて至福と示した

あてもなく、明日を見て  
陰を知り。椿咲き  
瞳を閉じ、口を開き

涙を浮かべ、さあ行こう  
なんて、幸せ

## 重ねてゆく日々

たくさんの出会いと  
ありったけの想いで  
私は生まれた

暖かい香とか  
深い陽とかは  
まだ見られていないけど

時計の針は残酷で  
まるで痛めつけるが如く  
深刻そうな顔をして  
刻んでいく、恐ろしい凶器

重ねて行く日々  
限りをつけてゆこう  
もう戻れない事など  
さいしょから しっていたはず

吐息とため息の違いは  
安らぎの有無によります  
束ねた髪と札も  
空に舞った。

帰らない時間と  
身にしみる想いで

私はつくられた

人の関係とか

笑い合う夢は

とつくの昔に消えた

思いを馳せるうちに

私は何処かへ逃げたくなる

涙さえ浮かべられずに

そのまま何処へゆくというのか

重ねて行く日々

もう忘れていきたい

大切なモノなど無いと

さいしょから わかっていたんだ

おもいとおもいの違いは

こころかからだかということ

好いていた鳥は

遠出をした。

たくさん・えいえん・ずっと・みらい

ずっと偽善で終わっていく

人はいつまで嘘をはきつづける

もう、終わりにしよう

重ねて行く日々

今はもう無いから

描いている筆を置き

さいしょから はじめていつか

始まりと終わりの違いは

進む向きによります

歩き始めたのは

もう昔のこと。



重ねてゆく日々(後書き)

社会風刺的な

## 退屈、Emigration

すくい上げた実権は

なんの威力があるというのか

また愛らしいセカイが

ほほえんでくれるというのか

そういえば右上の棚

右から二番目．．．そう、そこに

貴方と誰かの写真が

ニコニコニコニコあるんですね

今日も貴方は

何処へ行くの？

日曜までお仕事なんて

いつか倒れてしまっくんじゃない？

退屈、Emigration

今日も貴方の帰りは遅い

冷え切った夕食を

流しに流すのはもうやめて

朝、起きたら

もう貴方の姿はない

ああ、無人の部屋で今日も呟く

“行ってらっしゃい”．．．

愛したという実感は  
なんの意味があるというのか  
堪えきれずにこぼれた涙  
拭ってくれるというのか

まだ気付いてないんですね  
一昨日の夕方．．．そう、そこで  
貴方と誰かの散歩を．．．  
ニコニコニコニコした貴方が

今日も貴方は  
偽って何処か行く  
目も合わせずにドアを閉める  
カギの音がなんとも心地よい

退屈、Emigration  
今日も貴方の帰りは遅い  
残業代は出てるの？  
ご飯はもう食べたというの？

なにも、したくない  
なにもやる気が起きないんです  
ああ、無人の部屋で今日も咳く  
“おかえりなさい”．．．

ねえ、ねえ、聞いてよ  
家政婦を雇ってみたの  
貴方好みの美人さんでしょ？

どうしたの二人とも顔が真っ青ですよ？

毎日、夕暮れまでに

帰ってくるのは彼女のため？

あの人の作る夕食は

とても美味しいですからね

You'll become "immigration"

もう出かける必要はない

ああ、ようやく貴方に言える

“逝ってらっしゃい”・・・

退屈、Emigration(後書き)

愛人を家政婦として雇った妻。

楽しい楽しい“共同生活”のはじまりはじまり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0193o/>

---

詞集

2011年10月7日19時59分発行